

坪田信貴著「ビリギャル—学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話—」KADOKAWA 2013年12月27日刊を読む

偏差値30の子に効果的な日本史の学習法

1. 正直、こういう「女の子」は実は多いのです。歴史に関しては、概して「男の子」のほうが強い傾向があります。
2. さて、さやかちゃんのような子にお勧めな日本史の学習方法は、ずばり、『学習まんが少年少女日本の歴史(23冊セット)』(小学館／1997年12月に出た改訂・増補版)を、ひたすら読むこと、になります(なお、さやかちゃんが使ったのは、小学3年生の時に買ってもらった、1980年代に出ている『学研まんが日本の歴史』シリーズですが、もはや古いので、それは今はお薦めしません。またその最新版もお薦めしません。内容が大幅に薄くなっているからです)。
3. 結局、歴史は“歴史に名を残すレベルの偉人が出演する昼ドラ”なのです。
自分の息子の奥さんを寝取っちゃう元天皇のお坊さんとか、現代社会ではありえないようなことをする主人公がたくさんいて、月9のドラマとか、昼ドラや韓流ドラマが好きなお子には、「その百倍おもしろいストーリーが満載なんだよ」という説明をすると、必ず、「へー」となるものなのです。
4. さらに、『学習まんが少年少女日本の歴史(23冊セット)』を読みながら、「自分がドラマの監督だったら、誰をこのキャラの配役にするか、考えてごらん」と言って読ませると、時代背景や敵対関係、仲間関係なども把握しやすくなり、さらに読みやすくなるので、お勧めです。
5. ちなみに、この小学館の『学習まんが少年少女日本の歴史(23冊セット)』は、コマの外にある細かい情報などもしっかり読み込めば、これだけで難関大の入試に対応できるレベルで情報が整理されています。さやかちゃんにも、当時、『学研まんが日本の歴史』を欄外情報も含めて読みこむことを、最終的には指示していました(そして、君にはもうマンガしかない、と言われたことに、さやかちゃんはショックを受けて落ち込むのですが……後述)。
6. ちなみに、さやかちゃんが学習歴史マンガを買いに行った書店には、集英社の『漫画版日本の歴史』しか置いていませんでした。それで、電話をかけてきて、「集英社のでいいですか？」と聞くので、「ダメ！小学館か学研のを！」と言ったら、結局、ああちゃんが、昔買ってあった学研の古い版のマンガ全巻を、ガレージから引っ張り出してくれたそうです(世界史なら集英社のマンガが良いのですが)。

7. さて、こうしてマンガで一通り流れをつかむことがもしできたら、次は、山川出版社の教科書『詳説日本史B』を利用して、144ページのコーネル式ノートをもとめていくのが一番良いでしょう。その際、辞書代わりに、やはり山川出版社の『日本史B用語集』を使ってください。
8. コーネル式ノートをもとめる際に気をつけるべきことは、「山川の教科書を見ながら」ノートに写すのではなく、「山川の教科書の数段落分を読み、頭に入れてから」教科書を閉じて、ノートにもとめる、ということです。これにより、記憶が長期保持されやすくなり、また実際に毎回テストをやっているような状態になりますので、一石二鳥なのです。
9. それから、『一問一答日本史B用語問題集』（山川出版社）を使って、基本の用語を覚えれば、どんな私大の入試問題でも対応できるでしょう（正直、これを完璧に仕上げれば、基本的に私大の入試は80%は取れます。センター試験なら90%は取れます）。
10. さらに、国公立や一部私大の「論述」に対応するためには、『日本史論述問題集』（山川出版社）を使いましょう。
11. 日本史の論述問題の採点は、基本的には一人では少々難しいので、学校の日本史の先生にチェックをお願いしてみると良いでしょう。

P183 ~ 187

[コメント]

東宝映画「ビリギャル—学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話—」の原作、坪田塾 塾長 坪田信貴先生の本書には「学習の方法」の基本が満載。大学受験生だけではなく、学校や予備校、学習塾の先生方にとっても有益この上ない。映画とともに是非御一読を。

— 2015年5月13日 林 明夫記—